

# トビウオ通信 (10月号)

<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/> (TEL 0855-22-1720)

## 《 平成 15 年度下半期浮魚類中長期漁海況予報 》

平成 15 年度後期 (H15 年 10 月 ~ H16 年 3 月) の中長期的な漁況の予測をします。

### マアジ 2003 年級はやや増加!

島根県 ~ 青森県におけるマアジ漁獲量 (図 1) は、昭和 61 年以降増加傾向にありましたが、平成 10 年をピークにその後減少傾向にあります。平成 15 年 1 月 ~ 9 月までの漁獲量 (33,585 トン) は、前年同期 (28,633 トン) をやや上回り、平年 (過去 10 カ年平均: 44,548 トン) をやや下回っています (前年比 117%、平年比 75%)。漁獲物は 0 歳魚 1 歳魚といった小型魚が主体となっています。島根県西部海域では 5 月 ~ 7 月に漁獲の主体となる 1 歳魚があまり漁獲されず、逆に新潟県などで 1 歳魚の漁況が好調であったことなどから、今年は日本海でのマアジの分布域が北に広がっていたと考えられます。

今後の島根県沖のマアジ漁ですが、1 歳魚 (2002 年級) は資源が少ないと判断され、あまり期待はできません。一方、0 歳魚は秋以降の漁獲の主体となりますが、調査船による試験操業、計量魚探による分布量調査などの結果から、昨年に比べると多いと考えられ、マアジの総漁獲量は前年並み ~ やや上回ると考えています。

### マサバ低水準ながらやや増加!

島根県 ~ 青森県におけるマサバ漁獲量 (図 2) は、平成 8 年以降減少傾向にあります。平成 15 年 1 月 ~ 9 月までの漁獲量 (14,553 トン) は、前年同期 (11,756 トン) の 124% と、前年をやや上回りました。

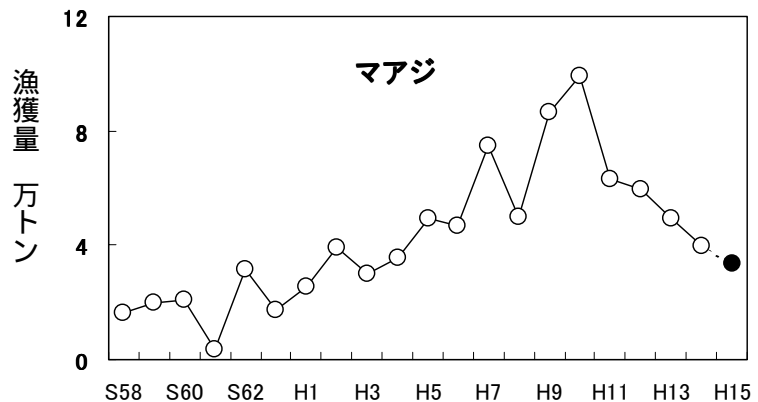


図 1 島根県 ~ 青森県におけるマアジ漁獲量の推移  
H15 年は 9 月までの集計

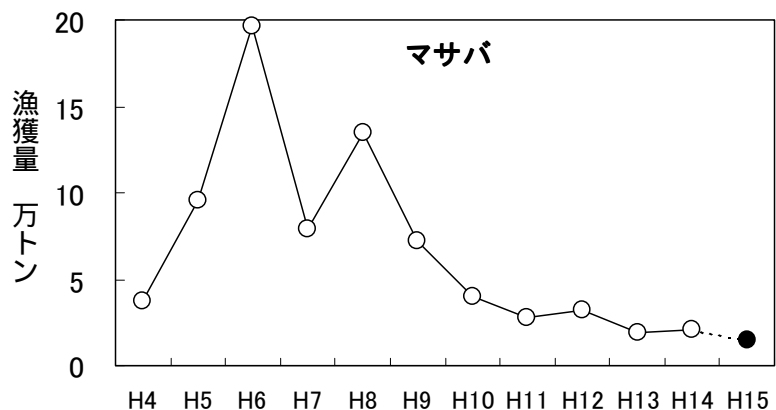


図 2 島根県 ~ 青森県におけるマサバ漁獲量の推移  
H15 年は 9 月までの集計

近年のマサバ漁獲状況を見ると、まき網、定置網などで0歳魚中心に一時的にまとまった漁が見られるものの、その後の継続的な漁獲や大型魚のまとまった漁獲が見られないことから、資源水準は極めて低いといえます。しかし、平成15年の当歳魚の発生量は前年を上回っているため、秋以降の漁獲量は前年をやや上回ると考えられます。

**マイワシ依然低水準！**

島根県～青森県までのマイワシ漁獲量(図3)は、平成5年以降減少傾向で、平成15年1月～9月までの漁獲量(766トン)は前年(284トン)を上回っています。太平洋海域(房総沖)では夏期を中心に比較的活発な漁もみられますが、日本海では、ほとんど獲れない状態が続いています。秋以降の漁模様ですが、資源量が極めて低水準にあるため、引き続き低調に推移すると思われる。

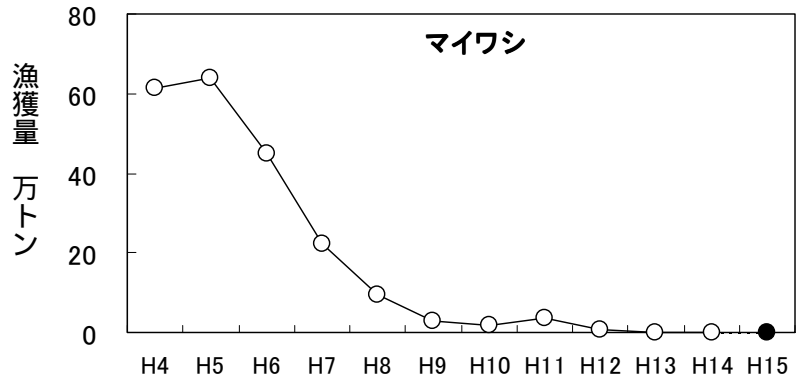


図3 島根県～青森県におけるマイワシ漁獲量の推移  
H15年は9月までの集計

**カタクチイワシの見通し？**

島根県～青森県までのカタクチイワシの漁獲量(図4)は近年増加傾向にありましたが、平成13年以降急激に低水準となっています。平成15年9月までの漁獲量(21,235トン)は前年(15,554トン)を大きく上回っていますが、これは、2～5月に日本海西部海域でまとまった漁獲があったことが原因です。今後の島根県での漁ですが、山口県の夏季のすくい網による当歳魚漁況が好調であったものの、その後まき網では全く漁獲されおらず予測は難しくなっています。

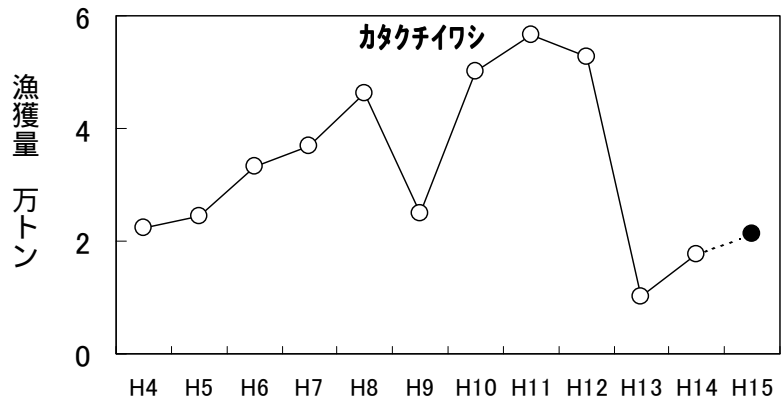


図4 島根県～青森県におけるカタクチイワシ漁獲量の推移  
H15年は9月までの集計

**ウルメイワシ資源低水準！**

島根県～青森県のウルメイワシの漁獲量(図5)は近年低水準にあります。平成15年1月～9月までの漁獲量は3,808トンで、前年同期(2,588トン)の147%と前年をやや上回りました。島根半島、隠岐島周辺で8月に活発な漁が見られましたが、漁場が限られており、資源としては以前低水準と思われる。今後の漁ですが、秋以降冬までの漁は前年並みであると思われる。

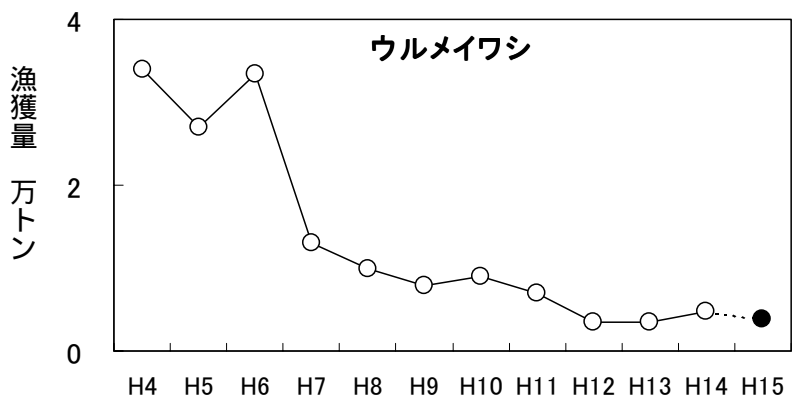
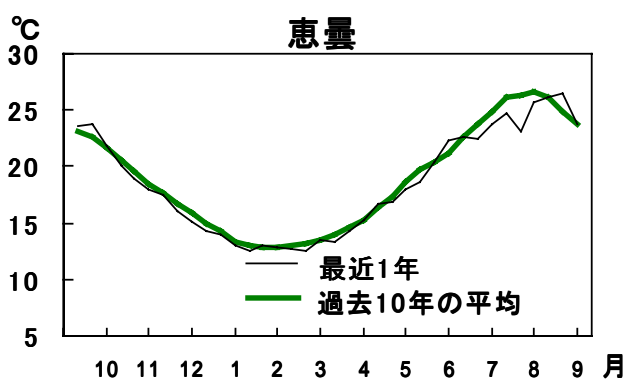
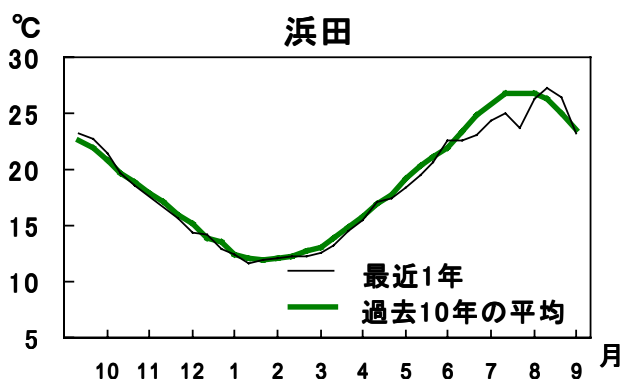


図5 島根県～青森県におけるウルメイワシ漁獲量の推移  
H15年は9月までの集計

## 《 9月の海況 》

9月	月平均	平年差	評価
浜田	25.7	+0.7	やや高め
恵曇	25.5	+0.6	やや高め

9月の月平均水温は浜田で25.7、恵曇で25.5となり、天候が良かったため先月より水温が高くなりました。そのため、上、中旬は平年を上回っていましたが、下旬になって平年並みとなりました。



島根・鳥取県・山口県の各水産試験場が実施した海洋観測結果(9/29~10/9)によると、各層の水温は、表層(0m)が20.9~24.2(平年差は-1.2~+1.1)、中層(50m)が16.0~24.4(平年差は-2.5~+3.3)、底層(100m)が5.5~20.9(平年差は-5.3~+5.3)となっています。

沿岸域の水温は先月より3前後下降し平年並みとなりましたが、沖合では冷水域付近で平年より1低くなりました。中、底層では山陰・若狭沖冷水域の勢力が強く、隠岐の南東海域にまで南下しており、周辺海域では平年を2~4も下回りました。隠岐の西80マイルにも島根沖冷水域が見られ、2つの冷水域に挟まれた隠岐北~西の海域では暖水域が形成され、平年を5前後も上回っていました。

山陰沿岸海域の水温は、表層では「やや低め~やや高め」、中層では「かなり低め~かなり高め」、底層では「はなはだ低め~かなり高め」となっています。

## 《 9月の漁況 》

### 【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量は、マアジ主体に274トン、総水揚金額は6,092万円でした。1統当りの漁獲量は91トンで、平年(過去5年平均)の55%、前年の95%となりました。水揚金額は2,031万円で、平年の84%、前年の77%でした。西郷では、マアジ、サバ類主体に総漁獲量3,209トン、総水揚金額は2億4,863万円でした。1統当りの漁獲量は535トンで、平年の65%、前年の38%となりました。水揚金額は4,144万円で平年の74%、前年の71%となりました。浦郷ではサバ類が好調で、マアジとともに漁獲の主体となっており総漁獲量2,545トン、総水揚金額は1億797万円でした。1統当りの漁獲量は636トンで、平年の128%、前年の59%となりました。水揚金額は2,699万円で平年の89%、前年の56%となりました。

### 【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、ケンサキイカ、スルメイカを中心に232トンで、平年(過去5年平均)の129%、前年の70%となりました。浜田に水揚げされたケンサキイカは2段半~4段が主体、スルメイカは20入りが主体となっています。

### 【沖合底びき網漁業】

浜田船の総漁獲量は358トン、総水揚金額は1億4,600万円、また1統当たり漁獲量は51.2トン、水揚金額は2,086万円で、量・金額ともに前年ならび平年を下回りました。エチゼンクラゲの影響により漁場が制約され、やや沿岸よりでの操業となっています。その影響により、カレイ類、アナゴ類の漁獲は前年の半分に留まっています。一方、ケンサキイカ(前年比1.8倍)、アンコウ(前年比1.6倍)、ニギ

ス(前年比 3.8 倍)は好調に推移しています。

恵曇船の総漁獲量は 105 トン、総水揚金額は 6,559 万円、1 統当たり漁獲量は 34.9 トン、水揚金額は 2,186 万円で、量・金額とも前年並みの水揚状況でした。浜田同様にムシガレイ(前年比 70%)、アナゴ類(前年比 38%)は低調に、アンコウ(前年比 3.2 倍)、キダイ(前年比 1.7 倍)は好調に推移しています。

#### 【小型底びき網漁業】

和江漁協ではキダイ、ケンサキイカ、大田市漁協ではニギス主体の漁となっています。1 航海当たり漁獲量・水揚げ金額は両漁協とも前年を 7～13% 下回りました。ケンサキイカが小型中心ながら好調に推移しています。アカムツも好調で前年の 2 倍の水揚げとなっています。一方、カレイ類、キダイ、アナゴ類は低調に推移し、キダイは前年の 6～7 割程度の水揚げに留まっています。

#### 【定置網漁業】

県東部では漁獲量は前年および平年を下回りましたが、水揚金額は平年並みで前年を上回りました。県西部では漁獲量・水揚金額ともに平年を下回り、漁獲量も前年を下回りましたが、水揚金額は前年を上回りました。隠岐では平年並みの漁獲量・水揚金額でしたが、漁獲量・水揚金額ともに前年を下回りました。

県東部ではブリ、コシナガが主体で、その他ではサワラ類、カタクチイワシ、マアジなどが漁獲されています。コシナガは前年の約 20 倍、カタクチイワシは前年の約 30 倍の漁獲量となっています。県西部ではマアジが主体で、その他ではブリ、コシナガなどが漁獲されています。隠岐ではマアジ、サバ類が主体で、マアジは前年の約 3 倍でしたが、サバ類は約 1/5 の漁獲量となっています。

#### 【釣・縄】

県東部では漁獲量は平年および前年並みでしたが、水揚金額は前年および平年を下回りました。県西部では漁獲量は前年および平年を上回り、水揚金額は前年並みで平年を上回りました。隠岐は漁獲量・水揚金額ともに前年および平年並みとなっています。

県東部と県西部ではケンサキイカが主体で、その他に県西部ではメダイ、マダイなどが漁獲されています。隠岐ではメダイが主体で、その他ではソデイカ、ケンサキイカ、キダイなどが漁獲されています。

### 漁獲統計

平成 15 年 9 月 1 日～30 日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1 隻(統)1 航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	52	マアジ	5.3 ト	274 ト
	西郷	100	マアジ・サバ類	32.1 ト	3,209 ト
	浦郷	65	マアジ・サバ類	39.2 ト	2,545 ト
イカ釣り (5 トン以上)	浜田	751	ケンサキイカ・スルメイカ	309Kg	232 ト
	西郷	-	-	- Kg	- ト
沖底	浜田	41	ケンサキイカ・ムシガレイ	8.7 ト	358 ト
	恵曇	22	ヤナギムシガレイ・アンコウ	4.8 ト	105 ト
小底	大田市	340	ニギス	579Kg	197 ト
	和江	410	キダイ・ケンサキイカ	637Kg	261 ト
定置網	浜田	65	マアジ・コシナガ・サワラ類	565Kg	36.7 ト
	美保関	96	カタクチイワシ・サバ類・ブリ	627Kg	60.2 ト
	浦郷	45	マアジ・カワハギ類・ブリ	274Kg	12.3 ト
釣・縄	浜田	1358	ケンサキイカ・メダイ・ヒラマサ	30Kg	40.5 ト
	五十猛	488	ケンサキイカ・マダイ・メダイ	30Kg	14.6 ト

： 1 隻(統)1 航海当漁獲量は総漁獲量 / 延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。

： 西郷のイカ釣りは漁協合併に伴うシステムの変更のためデータが集計できませんでした。